

# フリーセミナー in 九州「システム開発プロジェクトの勘・コツ」 (2012年11月17日開催) レポート

2012年11月17日(土)に福岡にて、「システム開発プロジェクトの勘・コツ」と題してフリーセミナーを開催しました。PMBOK®はさまざまなプロジェクトにおいて活用できるフレームワークとして極めて有用ですが、実践の場においては具体化したルールにブレイクダウンする必要があります。

今回は、システム開発という分野においてベンダーが実際に取り組んでいる手法から多くを学び、参加者のプロジェクト成功への足掛かりになればとの思いで開催しました。

## 【セミナー】

### 『超上流工程マネジメントについて』 藤田和明 講師

システム開発の目的は、単にシステムの運用開始ができればよいということではなく、時には経営の問題解決であったり、時には業務のリエンジニアリングであるというようにステークホルダーの真の要望を満たすことにあります。

しかしながら、実際のシステム開発の中では本来の目的が忘れられてしまい、ステークホルダーの満足が得られないまま開発が進み運用が開始されてしまうことがあります。そうならないためには、プロジェクトの失敗につながる要因でもある問題を超上流工程において明確にしてプロジェクトの中で解決していく必要があります。

そのための取組みとして、現状の問題や課題の洗い出しを行い、ビジネス要求事項を実現するための具体的なシステム要求、システム仕様へ落とし込む必要があります。この抽象的な課題に対しての一つの答えが本講演で取り上げたREBOK®です。

藤田講師には、日立ソリューションにおける取組みも踏まえ、システム要求に到達する前までの工程について、丁寧に説明いただきました。

講演後の質疑応答では、本講演内容の取組みは大企業でなくても有効か、また、パッケージ利用の場合と大規模開発の場合の違いなど具体性の高い質問があり、丁寧にお答えいただきました。藤田講師に感謝いたします。



### 『東芝ソリューションでのPMへの取組みについて』 落合正雄 講師

東芝ソリューションにおいて、統括技師長を務めてこられた落合講師が、その中で体験した失敗プロジェクトの実例をあげ、その要因と現在の対策について具体的に説明いただきました。

失敗を防ぐための一時的な方法としては、PMOによるチェックがあります。しかし、本講演の中ではより根本的な解決へ向けて以下の4点の指南がありました。

①顧客との良好なパートナーシップの確立、②良い要求定義、③アーキテクチャーの標準化、④プロジェクト管理標準のノウハウ化。



それぞれのツール、技法について同社内で行われていることを具体的かつ詳細に説明いただきました。

また、自社内講師によるPMに関するセミナーといった育成メニューについてもご紹介いただきました。

講演終了後の質疑応答では質問がとぎれず、30分も超過する熱気のこもった講演でした。落合講師に感謝いたします。

## 【ワークショップ】

### 〔目的〕

- ・参加者であるPM関係者同士で親交を深める
- ・講演内容を自分のものにする

### 〔手法〕

グループ討議

### 〔テーマ〕

『上流工程において「あのとき、こうしておけば良かったなあ」と思ったことから得られる改善・教訓』



各個人の経験に基づいた教訓を付箋紙に書き出し、9つの知識エリアを関連付けさせてグループごとにまとめていただきました。最後に各グループからそれを発表していただきました。

その結果、知識エリアで言えば「コミュニケーション」、「スコープ」に意見が集まりました。これは、次回のフリー・セミナーのテーマ選定に向けて参考とさせていただきます。



## 【ネットワーキング】

セミナー、ワークショップの終了後、同じ会場で立食方式でささやかなネットワーキングを開催しました。

ここでは九州のPMP保有者同士で懇親を深めました。福岡でのセミナー開催を希望する声が多く聞かれました。

文責 地域サービス委員 成松



前列で一升瓶を抱いているのが、PMIJ地域サービス委員の成松、向かってその右が藤田講師、成松の左が落合講師です。